

競技注意事項

1. 競技規則について

本大会は、2024年公益財団法人日本陸上競技連盟競技規則及び大会規定により行う。また、本大会はWRK対象競技会とする。WRK申請競技会につき、WA競技用靴規定を適用し、適用除外としない。ただし、5000m競歩、リレー種目、国スポ選考種目、オープン種目はWRK対象競技会としない。

2. 招集について

- 選手招集は第3ゲートバックスタンド下で実施する。
- 招集開始時刻に係員からスパイクとアスリートビブス等の確認を受け、競技者係の誘導指示に従う。現地での最終点呼の代理人は認めない。ただし、多種目を同時に兼ねて出場する選手は、第1種目の招集完了時刻30分前までに「多種目同時出場届」を提出すること。（「11. V-TICについて」を参照）
- 欠場する場合は、「欠場届」を招集開始時刻までに招集所に提出すること。用紙はエントランスホールのTICに置く。
- 招集時刻（競技開始時刻を基準とする。）

トラック 予選・予備予選									トラック決勝	
100m・200m・400m			800m・110mH・100mH 400mH			1500m				
組	開始	完了	組	開始	完了	組	開始	完了	開始	完了
1～4	25分前	15分前	1～3	25分前	15分前	1～2	25分前	15分前	25分前	15分前
5～8	15分前	5分前	4～	15分前	5分前	3～4	15分前	5分前		
9～12	5分前	5分後								
13	5分後	15分後								

フィールド					
棒高跳		その他の跳躍競技		投てき競技	
開始	完了	開始	完了	開始	完了
60分前	50分前	50分前	40分前	40分前	30分前

⑤混成競技について

- 招集は、第1日目及び第2日目の最初の種目については、正規の招集手段で招集所にて行う。2種目目以降はトラック種目25分前、フィールド種目40分前に混成控室（雨天走路に設ける）に集合すること。ただし、競技の進行によって集合時間が変更になる場合がある。なお、棄権しようとする競技者は直ちに混成競技係に申し出ること。
- 棒高跳の練習については、円盤投の競技終了後、棒高跳ピットを使用して練習を行うことができる。（女子棒高跳の競技が終了している場合）よって、棒高跳の招集については40分前に競技場所にて行う。

⑥リレーに出場するチームは、招集完了時刻の1時間前までにTICに用意してあるオーダー用紙に、オーダーを記入し招集所に提出すること。

⑦携帯電話、スマートフォン、タブレット等の通信機器を招集所・競技エリア内に持ち込むことを禁止する。持ち込んでいる場合は助力と見なされる場合がある。

3. アスリートビブスについて

- アスリートビブス（縦16cm×横24cm）は、エントリー時に入力された登録番号で競技者が準備すること。
- 1500m予選・決勝、少B3000m決勝、5000m決勝、3000mSC決勝、5000mW決勝についてはオーダー順の腰ナンバー標識を招集所で配付する。フィニッシュ後に係に返却すること。
- ②以外の種目では、①と同じ番号の腰ナンバー標識（縦12cm×横18cm）を準備すること。
- 混成競技の最終種目（男子1500m・女子800m）において、それまでの成績による順位を表すアスリートビブスとレーンナンバーが表記されている腰ナンバー標識を混成競技係よりレース前に配付する。配付されたアスリートビブスを胸に、自身のアスリートビブスを背中に使用すること。フィニッシュ後に配付されたものを混成競技係に返却すること。
- アスリートビブス・腰ナンバー標識の安全ピンは各自で用意すること。

4. 競技の抽選および番組編成について

- 予備予選、予選におけるレーン順および競技順はプログラム記載の順序とする。なお100m・200m・400m（男子のみ）

- の予選とすべての決勝の組み合わせ（レーン順、試技順）はTR20. 4. 3～5に従って番組編成員が行う。
- ②800mで10名出場の場合、8レーンに2名入るものとする。
- ③十種競技の最終種目において、それまでの成績による順位の上位選手から、内側レーンにシードする。

5. 競技について

- ①競技結果については、場内スクリーンに表示し、アナウンスで発表するとともに、「滋賀陸上競技協会Webページ」に掲載する。なお、競技結果が場内スクリーンに確定表示し、アナウンスされた時点を正式発表とする。
- ②競技者に対する助力については、TR. 6に準ずる。
- ③男女100m、男女200m、男女400mの予選において、資格記録上位9名の選手から欠場が出た場合、予備予選からの進出者数を増やす場合がある。
- ④次の種目について、下記のタイムを超えて周回を残している場合、競技運営上フィニッシュ地点で競技を中止させるので、審判員の指示に従うこと。
男子5000mW 28分 女子5000mW 29分
- ⑤男子5000mにおいて、原則グループスタートとし、アウトレーンゴールとする。
- ⑥主催者が設置したビデオ記録を用いて、判定を行うこともある。
- ⑦三段跳の踏切板は、砂場から男子13m00、女子10m00の地点に設置する。
- ⑧男女走幅跳・三段跳の競技前練習について、試技順に「足合わせ1本」「公式練習2本」を行った後、競技開始時刻5分前までフリー練習とする。
- ⑨走高跳の競技前練習について、フリーで足合わせを行った後、競技順に事前に決められた高さでの「公式練習2本」とする。
- ⑩フィールド競技において、「コーチ席」を設けるので、競技者への助言はすべて「コーチ席」から行うこと。
- ⑪フィールド種目における手拍子についてはTOP8(走高跳や棒高跳においては上位8名程度)が決まるまでは禁止とする。

6. 走高跳・棒高跳のバーの上げ方について

	種目	練習	バーの上げ方
男子	走高跳	1m70、2m00	1m75-80-85-88-91-94-97-2m00 以降3cm刻み
	十種走高跳	1m40、1m70	1m45-50-55-60-65-70-73 以降3cm刻み
	棒高跳	3m70、4m50、4m80	3m80-90-4m00-10-20-30 以降10cm刻み
	十種棒高跳	2m40、3m30、4m00	2m50-70-90-3m10-20 以降10cm刻み
女子	走高跳	1m40、1m55	1m45-50-55-58-61-64-67 以降3cm刻み
	七種走高跳	1m20、1m45	1m25-30-35-40-45-48-51-54 以降3cm刻み
	棒高跳	2m70、3m20、3m70	2m80-90-3m00-10-20-30-40 以降10cm刻み

※同記録による順位を決定するバーの上げ下げは走高跳2cm、棒高跳5cmとする。

※バーの上げ方（練習の高さを含む）については、天候等の状況により変更する場合がある。

7. 競技用具について

- ①競技に使用する用具は、棒高跳用ポール以外、競技場備え付けのものを使用しなければならない。ただし、投てき用具については、1人2個以下のものに限り、当日検査の上使用を認める。このとき、すべての競技者が使用できることが条件となる。
- ②持ち込み投てき用具の検査を受ける場合は、競技開始の1時間前より40分前までに、TICへ投てき用具と投てき用具検査申請書を提出すること。投てき用具には所属名を記入しておくこと。前回の検査済シールは剥がしておくこと。投てき用具検査申請書の控えをTICに提示し、投てき用具を返却する。（「11. V-TICについて」を参照）
また、WRK対象競技会のため、使用できる用具のリストを確認しておくこと。
- ③スパイクシューズは全天候型のピンを使用し、その長さは9mm以内とする。ただし、走高跳、やり投は12mm以内とする。いずれの場合もスパイクピンの数は11本以内とする。
- ④競技用シューズについてはTR5. 2に基づいて実施する。必要に応じて競技役員が競技用シューズを競技前、競技中または競技後に確認することがある。
- ⑤競技用シューズの承認状況は、<https://certcheck.worldathletics.org/>で、使用が許可されているものかを競技者の責任で確認すること。

8. 表彰について

- ①県選手権種目優勝者(国スポ選考種目は除く)には選手権章と賞状を授与する。但し、選手権章は県内登録者に限る。
- ②結果のアナウンスののち、該当者は直ちに表彰席(エントランスホール)に来ること。

9. 近畿大会の出場権について

- ①本大会6位(男子十種競技、女子七種競技は4位)入賞者は、近畿選手権大会に出場できる。但し、県内登録者に限る。出場希望者は、プログラム掲載の大会要項を確認の上、申込〆切期日までに申し込むこと。
- ②今大会中に申し込む場合は、プログラム最終ページの「個人申込票」に記入し、参加料を添えてエントランスホールのTICに提出すること。

10. 練習について

- ①メイン競技場の練習時間帯は1日目7:30~9:00、2日目7:30~8:50とする。
補助競技場の練習時間帯は2日間とも8:00~最終種目招集開始時刻までとする。
- ②メイン競技場・補助競技場とも競技場備え付けの用具を使用すること。ラダー、ミニハードル、ゴムチューブ等を使用時のスピード練習は禁止する。
- ③メイン競技場のレーンの使用は、1レーンは400m以上のスピード練習2レーンはジョグ専用、3~7レーンは短距離練習、8・9レーンはハードル練習とする。補助競技場のレーンの使用は、1レーンは400m以上のスピード練習2レーンはジョグ専用、3~6レーンは短距離練習、7・8レーンはハードル練習とする。
- ④補助競技場の跳躍練習について、助走練習のみ可能とする。ただし、使用した者で準備・片付けをすること。マットや踏切板の使用はできない。
- ⑤投てき練習(メディシンボール等を含む)は、競技場の内外を問わず一切禁止する。
- ⑥ウォーミングアップは補助競技場および室内練習場で行うこと。2階・3階スタンド通路、メイン競技場通路や駐車場周辺で、ダッシュ等のウォーミングアップは禁止する。
- ⑦室内も含めて競技場内での練習は、競技役員員の指示に従うこと。また、室内練習場は、短距離系のスピード練習と長距離のジョグは混在しないように注意すること。また、走る方向は彦根城側から大型スクリーン側とする。砂場は使用不可とする。

11. V-TICについて

- ①「多種目同時出場届」「投てき用具検査申請書」「記録証明書発行届」はV-TIC内の専用フォームから提出すること。
- ②「投てき用具検査申請書」の控えについて、入力されたメールアドレスに控えが送信される。これは投てき用具返却の際に必要となる。
- ③記録証明書は発行手数料500円と引き換えにエントランスホールのTICで手渡す。



12. その他

- ①競技会における怪我の応急処置は主催者が行うが、以後の責任は負わない。
- ②テントはメインスタンド、サイドスタンドは禁止する。バックスタンドは可とするが、風で飛ばないように設置すること。各自、各チームが出したごみは持ち帰りを基本とする。各チームで使用した場所は責任をもって清掃し、競技場の環境美化に協力すること。
- ③各チームの荷物は、すべての競技が終了したのちに、室内練習場に置くことができる。
- ④競技場外でのテントの設営を禁止する。
- ⑤横断幕の設置は、サイドスタンドおよびバックスタンド最前列手すりとする。
- ⑥スマホ以外で撮影する場合は、エントランスホールのTICにて受付すること。撮影許可証は首からかけ、退場時に返却すること。大会で撮影した画像・動画等をSNS等へ投稿しないこと。
- ⑦スタート地点など、撮影禁止エリアでの撮影は認めない。審判員の指示等に従うこと。
- ⑧メインスタンド前ビットやバックスタンド前ビットで行われる跳躍競技において、録画再生機器等をスタンドからの手渡しや吊り下げなどにより競技エリア内に持ち込むことを禁止とする。
- ⑨サイドスタンドでは、コーチ席内から録画再生機器等を選手に手渡してもよいが、録画再生終了後すぐにコーチ席内に戻すこと。
- ⑩混成控室は混成競技に出場する選手のみ使用ができることとする。
- ⑪競技エリアに日傘、折りたたみ椅子、大型クーラーボックスなど、競技運営や他の競技者に支障をきたす恐れのある物を持ち込むことはできない。